

明治八年
大坂新聞
錦旗
第一号

東京の今分は常言といふの谷中の方
よりわき車曳く黒門徒(一)来る物
女の泣聲(二)追刺(三)思案(四)眠(五)振
て客待(六)りこと、白浪(七)刺(八)せる
衣類(九)脊(十)にいまる所と常言(十一)且那
お供(十二)とわかれ、相澤(十三)逆(十四)をも、激法界
價(十五)定(十六)て母(十七)我(十八)の、ち(十九)り(二十)る細
別(二十一)び(二十二)く(二十三)直(二十四)る人(二十五)かや、巡(二十六)り(二十七)まの早
走(二十八)り、派(二十九)なら(三十)ま、巡(三十一)査(三十二)の、屯(三十三)所の門(三十四)を
賊(三十五)と(三十六)大聲(三十七)言(三十八)ふ、官(三十九)持(四十)あ(四十一)た(四十二)走(四十三)り出(四十四)る
賊(四十五)の、驚(四十六)き(四十七)げ(四十八)ん(四十九)を、よ(五十)る(五十一)ま(五十二)ま(五十三)長(五十四)区(五十五)
か(五十六)く(五十七)た(五十八)の(五十九)た(六十)を、と(六十一)れ(六十二)て(六十三)ら(六十四)ち(六十五)ら(六十六)し



河原文太

略誌
社
印

